カンテレ史

カンテレ史 フィンランド音楽史

バルト海沿岸国を中心にカンテレに類似する楽器は２０００年以上前から存在したと言われている。この頃カンテレでは『カレヴァラ』に代表されるルノラウル(伝統詩歌)の伴奏や旋律が即興的に奏でられた。

1200

- **●1155年** トゥルクに大聖堂聖歌学校が誕生

1300

1400

1500

- **●1551年** Ｍアグリコラによる『信仰の本』発行 竪琴を指す楽器の名称として「ＫＡＮＴＥＬＥ(ＣＡＮＤＥＬＥ)」という語が掲載
- **●1582年** Ｊフィンノ、Ｔペトラによる『ビエ・カンツィオーネス』編纂
- **●1583年** Ｊフィンノによる讃美歌の編纂

1600

- **●1698年** 現存する最古の５弦カンテレが製作される

1700

- **●1766-1788年** 歴史学ＨＧポルタン著『フィンランドの詩より』で５弦カンテレとルノラウルについて言及
- **●1790年** トゥルク演奏協会(1927年以降トゥルクフィルハーモニー管弦楽団)創立

1800

- **●1802年** イタリア出身のＧアチェルビ著『スウェーデン、フィンランド、ラップランドからノースケープへの旅』で５弦カンテレとルノラウルについて言及 カンテレ曲とルノラウルの楽譜も添付
- 多弦化が進み、最大で１５弦にまでなる
- **●1828年** 音楽アカデミーがヘルシンキへ移転 Ｆバシウスが音楽教師として迎えられる
- 箱型カンテレの発展、２０弦以上の多弦化、各地域で独特な奏法が編み出され始める
- **●1831年** ＣＡゴットルンドによる『フィンランドの羊飼い-カンテレ、角笛のための曲集』出版
- **●1840年** Ｅリョンルートによる『フィンランド人の歌と詩の楽譜集』編纂
- **●1848年** 『わが祖国』(Ｊルーネベリ詩、Ｆバシウス曲)初演、後にフィンランド国歌となる
- **●1852年** Ｆバシウスのオペラ『カール王の生還』初演
- **●1853年** オペラ『カール王の生還』にてカンテレが即興共演(スコアにカンテレパートは書かれていない)

フィンランド史

1200

- **●1155年** スウェーデンよりキリスト教伝来 スウェーデン王国の一部となる

1300

- **●1229年** トゥルクが首都となる

1400

1500

- **●1323年** パハキナサーリ条約 スウェーデンとノヴゴロド(ロシア)が和解、フィンランド東部はノヴゴロドに、フィンランド西部と南部はスウェーデンに割譲
- **●1527年** スウェーデンで宗教革命 フィンランドもルター派が国教に
- **●1543年** Ｍアグリコラによる『ＡＢＣの本』(フィンランド語で書かれた最初の本)発行
- **●1548年** Ｍアグリコラによる聖書のフィンランド語訳出版
- **●1550年** ヘルシンキの町が誕生

1600

- **●1618-1648年** スウェーデンが３０年戦争に参加 フィンランドも共に戦う
- **●1640年** 王立トゥルク・アカデミー(フィンランド初の大学)設立

1700

- **●1700-1721年** 大北方戦争(スウェーデン対ロシア) フィンランド東部の一部がロシアに割譲
- **●1741-1743年** スウェーデンの対ロシア報復戦争 フィンランド東部がロシアに割譲 ロシアは割譲された土地に住むフィンランド人の宗教的自由、不動産、法律や特権を保障

1800

- **●1808年** フィンランド戦争 フィンランドはロシアに割譲
- **●1809年** フィンランド、ロシア自治公国に
- **●1812年** 首都がヘルシンキに遷都
- **●1831年** フィンランド文学協会設立
- **●1835年** Ｅリョンルート『古カレヴァラ』を編纂 民族ロマン主義の開花
- **●1849年** Ｅリョンルート『新カレヴァラ』完本出

明治	江戸	室町	鎌倉	
ロマン派	古典派	バロック	ルネサンス	中世

カンテレ史 フィンランド音楽史

1800

- **●1860年** ＦＶシャンツ『カレヴァラ』を題材とした初の音楽作品『クッレルヴォ序曲』を発表
- **●1882年** ヘルシンキ・オルガニスト養成学校設立 Ｍヴェゲリウスがヘルシンキ音楽院を創設 Ｒカヤヌスがヘルシンキオーケストラ協会を設立
- 箱型カンテレの弦数は28弦にまで増える
- **●1890年頃** 『わが祖国』の歌詞フィンランド語訳化
- **●1896年** 第１回ソルタヴァラ音楽フェスティバル開催、カンテレ奏者が演奏
- **●1896-1898年** Ｊシベリウスがカンテレ用の楽曲『カンテレのための２つの小品』を作曲
- **●1899年** Ｊシベリウスが画家Ｐハロネンの５弦カンテレにバイオリンパートを加えた小曲『子守唄』を即興で演奏
- **●1899年11月** フィンランディア初演

1900

- カンテレ奏者ｐヤースケライネンが積極的に国内外で演奏、レコード収録
- **●1904年** Ｏメリカントがｐヤースケライネンのために『さえずり』を作曲、アンサンブルコンサートで披露
- **●1909年** Ｅメラルティン作曲のオペラ『アイノ』初演、オペラに初めてカンテレを起用(ただし初演はハープで代奏)
- 母語(スウェーデン語ｖｓフィンランド語)の言語論争の影響を受け、各オーケストラで競い合うオーケストラ戦争が頻発
- **●1910年** ｐヤースケライネンが国内週刊誌の「フィンランドで最も重要な人物」投票でトップ３に入る
- **●1917年** ヴァイオリン奏者Ｈハロネンが母親ヴィルヘルミーナの５弦カンテレ曲集を編纂 翌年兄Ａハロネンがサヴォ地方のカンテレ楽曲集を編纂
- フィンランド作曲家協会が設立
- **●1919年** カレヴァラ協会が設立 多くの芸術家たちがカレリア地方を訪れる
- **●1920年代** Ｐサルミネンによるコンサートカンテレ考案 これに伴い長い弦(低い)を手前にしての演奏が定着化
- **●1923年** ヘルシンキ音楽院にてサルミネンによるカンテレ教育が開始(第一期生はＵカタヤヴオリ、ＶハンニカイネンＡキルヴェンサロ)
- **●1935年** ＹＶグレンハーゲン、ドイツで後のナチス親衛隊指導者Ｈヒムラーに会う
- **●1936年～** ＹＶグレンハーゲン、アーネンエルベ(ナチスの研究機関)の活動としてカレリア地方へ赴き、ルノラウルやカンテレに関する調査、録音、撮影を行う
- **●1940年代** ファッツェル・ムシーッキ社がＰサルミネンのメカニック機能のないカンテレを「ホームカンテレ」という名称で販売開始、その後この名前が定着
- **●1950年** カリフォルニアのフィンランド系移民の団体「カレヴァラの兄妹の会」よりシベリウスにコンサートカンテレ贈与
- **●1963年** Ｕカタヤヴオリがソプラノ歌手Ｓアールノと共にニューヨークのカーネギーホールでコンサートを行う
- **●1968年** 第１回カウスティネン民族音楽祭開催
- **●1970年** タンペレ音楽院のシラバスにカンテレが追加 イロマンツィで第１回カンテレキャンプ開催
- **●1971年** フィンランディアホール完成
- **●1975年** シベリウスアカデミーにてカンテレが教えられ始める
- **●1977年** カンテレ協会(Kanteleiitto ry)設立
- **●1983年** シベリウス音楽院民族音楽科にカンテレコース設立 Ｅレスケラがカンテレメーカーを設立
- **●1985年** 『カレヴァラ』１５０周年 伝統音楽復興プロジェクトにより全国の学校へ５弦カンテレが贈与
- **●1987年** シベリウス音楽院にカンテレソリスト科が設立
- **●1989年** シベリウス博物館にてシベリウスが作曲のカンテレ楽曲『カンテレのための２つの小品』の楽譜が見つかる

2000

- エレクトリックカンテレが開発される
- **●2008年** 日本カンテレ友の会設立
- **●2011年** 第１回国際カンテレコンクール開催

フィンランド史

1800

- **●1863年** 言語宣言 フィンランド語が公用語に フィンランド議会召集
- **●1865年** フィンランド独自通貨マルッカ導入
- **●1878年** 徴兵法 フィンランド独自軍隊の配置
- アレクサンドル３世、ニコライ２世の統治下、ロシアはフィンランドへの締付けを強化

1900

- **●1900年** パリ万博に出展
- **●1907年** 第１回国会選挙
- **●1917年** ロシア革命に乗じて独立を宣言
- **●1917-1918年** 内戦
- **●1919年** 憲法採択、共和国となる
- ＫＪストールベリが初代大統領就任
- **●1939-1940年** 冬戦争 カレリア地方がソビエト連邦に割譲
- **●1941-1944年** 継続戦争 北極海沿岸域をソビエト連邦に割譲
- **●1946年** ＪＫパーシキヴィが大統領に就任 ソビエト連邦との関係改善に尽力
- **●1948年** ソビエト連邦と「友好協力相互援助条約」締結
- **●1952年** ヘルシンキオリンピック開催
- **●1955年** 国際連合に加盟
- **●1956年** 北欧理事会に加盟 Ｕケッコネンが大統領に就任
- **●1961年** 欧州自由貿易連合に加盟(準加盟国)
- **●1973年** 欧州経済共同体と自由貿易協定締結
- **●1995年** 欧州連合(ＥＵ)に加盟

2000

- **●2000年** 初の女性大統領Ｔハロネン就任
- **●2002年** 通貨がユーロになる
- **●2013年** ＳニーニストがＳ大統領に就任

平成	昭和	大正	明治
現代		近代	ロマン派